

平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年7月31日

上場会社名 日進工具株式会社
 コード番号 6157 URL <http://www.ns-tool.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月7日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 後藤 弘治
 (氏名) 田島 寛

TEL 03-3763-5672

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|-------------|-------|-----|------|------|------|------|------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 30年3月期第1四半期 | 2,288 | 5.2 | 644 | 10.2 | 651 | 10.5 | 412 | 9.5 |
| 29年3月期第1四半期 | 2,175 | 6.5 | 585 | 26.9 | 589 | 20.2 | 376 | 19.3 |

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 404百万円 (10.0%) 29年3月期第1四半期 367百万円 (15.7%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 30年3月期第1四半期 | 32.98 | — |
| 29年3月期第1四半期 | 30.12 | — |

平成29年1月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、1株当たり四半期純利益については、当該株式分割の影響を考慮して記載しております(当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算出してあります)。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|--------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 30年3月期第1四半期 | 12,359 | 10,758 | 87.0 | 860.44 |
| 29年3月期 | 12,517 | 10,666 | 85.2 | 853.10 |

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 10,758百万円 29年3月期 10,666百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年3月期 | — | 30.00 | — | 25.00 | — |
| 30年3月期 | — | — | — | — | — |
| 30年3月期(予想) | — | 20.00 | — | 20.00 | 40.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成29年1月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、平成29年3月期第2四半期末の1株当たり配当金につきましては、当該株式分割前の金額であります。なお、平成29年3月期の実績に対して株式分割の影響を考慮した場合の1株当たり実質年間配当金は40円00銭(記念配当5円00銭を含む)となります。

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|-----------|-------|-----|-------|------|-------|------|-----------------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 4,580 | 3.6 | 1,030 | △7.2 | 1,040 | △7.1 | 700 | △6.8 | 55.98 |
| 通期 | 9,130 | 3.4 | 2,090 | 3.8 | 2,100 | 3.6 | 1,450 | 2.1 | 115.97 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。詳細は、添付資料7ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 30年3月期1Q | 12,504,000 株 | 29年3月期 | 12,504,000 株 |
| ② 期末自己株式数 | 30年3月期1Q | 234 株 | 29年3月期 | 234 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 30年3月期1Q | 12,503,766 株 | 29年3月期1Q | 12,503,766 株 |

平成29年1月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、期末発行済株式数(自己株式を含む)、期末自己株式数、期中平均株式数(四半期累計)については、当該株式分割の影響を考慮して記載しております(当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算出しております)。

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 2 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 3 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 3 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 5 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 5 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 6 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 7 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 7 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 7 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 7 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、米国を中心とした海外経済の回復基調に加え、好調な企業収益や雇用環境を背景に設備投資や個人消費が底堅く推移し、緩やかな成長が継続いたしました。

当社グループ製品の主要需要先の状況といたしましては、自動車関連では、米欧向けの堅調が続くなか、安全性の向上や環境負荷低減に向けたモデルの人気により国内販売も底堅く推移しました。また、電子部品関連では、主力スマートフォンの新製品向けの部品供給が活発化したほか、クラウドやI・O・Tの進展等から需要が増加した半導体の製造装置関連も忙しい状況が続きました。

このような環境のなか当社グループでは、「INTERMOLD 2017」や「機械要素技術展」等の各種展示会に出展し、PCD（多結晶ダイヤモンド）やCBN（立方晶窒化ホウ素）を使用したエンドミルを中心に精密・微細加工に関する情報発信を積極的に行ったほか、電子部品関連のユーザーニーズに対応した無限コーティングプレミアムシリーズの規格拡大を行い、ラインアップの充実にも努めました。また生産面では、作業工程の工夫により機械稼働率の向上を図ったほか、一段の増産に向け新規設備の導入準備等を進めました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は2,288百万円（前年同期比5.2%増）、営業利益は644百万円（同10.2%増）、経常利益は651百万円（同10.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は412百万円（同9.5%増）となりました。

製品区分別の売上高では、「エンドミル（6mm以下）」が1,723百万円（前年同期比11.9%増）、「エンドミル（6mm超）」が266百万円（同5.2%増）、「エンドミル（その他）」が135百万円（同33.6%減）、「その他」が163百万円（同7.9%減）となりました。

（注）報告セグメントが1つでありますので、製品区分別に記載しております。なお「その他」の事業セグメントは、製品区分別の「その他」に含めております。

(2) 財政状態に関する説明

第1四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末と比較して総資産は158百万円減少し12,359百万円となりました。これは主に、法人税等の支払いによる当座預金の減少等によるものであります。

また、負債は前連結会計年度末と比較して249百万円減少し、1,601百万円となりました。これは主に、未払法人税等及び賞与引当金の減少等によるものであります。

純資産は前連結会計年度末と比較して、利益剰余金の増加などにより91百万円増加し10,758百万円となりました。なお、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は87.0%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年5月12日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 4,659,414 | 4,466,926 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,422,167 | 1,481,795 |
| 商品及び製品 | 1,018,631 | 987,045 |
| 仕掛品 | 209,576 | 221,773 |
| 原材料及び貯蔵品 | 364,593 | 364,306 |
| 繰延税金資産 | 218,897 | 222,816 |
| その他 | 78,178 | 114,066 |
| 流動資産合計 | 7,971,460 | 7,858,731 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 1,399,007 | 1,375,069 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 1,788,049 | 1,705,295 |
| 土地 | 669,233 | 669,233 |
| 建設仮勘定 | 51,750 | 77,312 |
| その他(純額) | 139,590 | 127,183 |
| 有形固定資産合計 | 4,047,631 | 3,954,094 |
| 無形固定資産 | 118,102 | 155,924 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 26,565 | 27,015 |
| 繰延税金資産 | 152,480 | 152,345 |
| その他 | 202,753 | 212,878 |
| 貸倒引当金 | △1,278 | △1,278 |
| 投資その他の資産合計 | 380,519 | 390,960 |
| 固定資産合計 | 4,546,254 | 4,500,978 |
| 資産合計 | 12,517,714 | 12,359,709 |

(単位:千円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 230,168 | 286,282 |
| 未払法人税等 | 305,304 | 223,471 |
| 賞与引当金 | 237,557 | 108,482 |
| 役員賞与引当金 | 145,000 | 32,249 |
| その他 | 436,745 | 525,342 |
| 流動負債合計 | 1,354,775 | 1,175,827 |
| 固定負債 | | |
| 役員退職慰労引当金 | 361,558 | 371,003 |
| 退職給付に係る負債 | 134,440 | - |
| その他 | - | 54,192 |
| 固定負債合計 | 495,998 | 425,195 |
| 負債合計 | 1,850,773 | 1,601,022 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 442,900 | 442,900 |
| 資本剰余金 | 405,800 | 405,800 |
| 利益剰余金 | 9,804,003 | 9,903,751 |
| 自己株式 | △151 | △151 |
| 株主資本合計 | 10,652,552 | 10,752,300 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 3,595 | 3,910 |
| 為替換算調整勘定 | 10,792 | 2,475 |
| その他の包括利益累計額合計 | 14,388 | 6,386 |
| 純資産合計 | 10,666,941 | 10,758,686 |
| 負債純資産合計 | 12,517,714 | 12,359,709 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 2,175,565 | 2,288,957 |
| 売上原価 | 917,721 | 933,131 |
| 売上総利益 | 1,257,843 | 1,355,825 |
| 販売費及び一般管理費 | 672,551 | 710,838 |
| 営業利益 | 585,291 | 644,987 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 22 | 14 |
| 受取配当金 | 233 | 233 |
| 受取賃貸料 | 4,050 | 4,050 |
| 作業くず売却益 | 2,638 | 3,043 |
| その他 | 1,424 | 2,276 |
| 営業外収益合計 | 8,368 | 9,617 |
| 営業外費用 | | |
| 賃貸費用 | 3,686 | 3,278 |
| その他 | 687 | - |
| 営業外費用合計 | 4,374 | 3,278 |
| 経常利益 | 589,285 | 651,326 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 2,179 | - |
| 特別利益合計 | 2,179 | - |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 2,789 | - |
| 役員退職慰労金 | 10,000 | - |
| 社葬費用 | - | 22,827 |
| 特別損失合計 | 12,789 | 22,827 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 578,674 | 628,499 |
| 法人税等 | 202,109 | 216,157 |
| 四半期純利益 | 376,564 | 412,342 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | - | - |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 376,564 | 412,342 |

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 376,564 | 412,342 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 407 | 314 |
| 為替換算調整勘定 | △9,428 | △8,317 |
| その他の包括利益合計 | △9,020 | △8,002 |
| 四半期包括利益 | 367,544 | 404,339 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 367,544 | 404,339 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | - | - |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当社及び一部の子会社について、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。